

○事業所名	中野区立療育センターアポロ園 保育所等訪問支援事業		
○保護者評価実施期間	2025年10月30日 0:00 ~ 2025年11月30日 23:55		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	374	(回答者数) 84
○従業者評価実施期間	2025年10月15日 10:00 ~ 2025年10月31日 23:55		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○訪問先施設評価実施期間	2024年12月17日 10:00 ~ 2025年02月12日 23:55		
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	90	(回答者数) 40
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの特性を丁寧に理解し、寄り添った専門的な支援ができています 子どもの苦手さや特性をよく理解している その日の状態に合わせて柔軟に対応している 成長点を丁寧に伝えてくれる 子どもが訪問支援を楽しみにしている 	<ul style="list-style-type: none"> 初回面談や日々の関わりで、子どもの苦手さ・得意さ・感情の動きを細かく把握するようにしている 訪問当日の体調や気分に合わせて、活動内容や関わり方を柔軟に調整している 成長点を必ず言語化し、保護者や園が前向きになれるフィードバックを心がけている 子どもの安心感を最優先し、無理をさせない関わりを徹底している 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの状態をより客観的に把握するため、アセスメントツールの活用を強化する 担当者間で子どもの理解を共有し、誰が訪問しても同じ質で寄り添える体制を整える 子どもの変化をより早く保護者・園に伝えられるよう、フィードバックのスピードを改善する
2	<ul style="list-style-type: none"> 具体的でわかりやすい助言・フィードバックが保育に活かされている 行動観察が丁寧で、具体的な助言が受け入れやすい 困りごとに対して実践的なアドバイスがある 園での援助方法を肯定しつつ改善点を示してくれる アポロ園での様子を共有し、家庭・園の理解が深まる 	<ul style="list-style-type: none"> 訪問時の観察ポイントを明確にし、行動の背景や意図を整理してから助言するようにしている 困りごとに対して「その日からできる」具体的な対応方法を提示することを意識している アポロ園での様子や成功例を共有し、園での実践につながるよう工夫している 保育者の取り組みを肯定しつつ改善点を伝える、対話的な助言スタイルを大切にしている 	<ul style="list-style-type: none"> 助言内容の標準化を進め、担当者による質のばらつきを減らす 集団保育を活かした支援方法や環境調整の提案を体系化し、より実践的な助言を提供する 事例紹介や教材・書籍の情報提供を充実させ、保育者が学びやすい仕組みを整える
3	<ul style="list-style-type: none"> 保護者・園との関係づくりが丁寧で、安心感につながっている 保護者への説明が丁寧で前向きになれる 園との連携が適切で、橋渡し役として機能している 子どもの成長を共に喜び、信頼関係が築けている 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の不安や思いを丁寧に聞き取り、否定せず受け止める姿勢を徹底している 園との連携では、保育者の視点を尊重しながら、共に考えるスタンスを大切にしている 子どもの成長と一緒に喜び、前向きな気持ちになれるフィードバックを意識している 訪問後の報告では、家庭・園の双方が理解しやすい言葉で伝えるよう工夫している 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者・園・事業所の三者で理解が揃うよう、説明内容の統一と情報共有の仕組みを強化する 訪問先との連携状況を保護者にも分かりやすく伝える仕組みを整える カンファレンスの時間管理や訪問スケジュールの調整方法を改善し、負担の少ない連携体制を構築する

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> 助言の質・深さ・一貫性にばらつきがある 相槌だけで終わることがある 助言が子どもの現状と合わないことがある 経験の未熟さを感じる場面がある 担当者交代時の引き継ぎが不十分 	<ul style="list-style-type: none"> 担当者の経験年数や専門性に差があり、助言の深度が均一になりにくい 観察ポイントや助言の構造が標準化されておらず、担当者ごとに伝え方が異なる 担当者交代時の引き継ぎが十分でなく、子どもの理解が共有されにくい 訪問間隔が空くことで、助言の継続性が保ちにくい 	<ul style="list-style-type: none"> 助言の「型」を整備し、観察→課題整理→対応→見通しの流れを標準化する 事例検討会や内部研修を定期的に行い、専門性の底上げを図る 担当者間の引き継ぎフォーマットを作成し、子どもの理解を共有する仕組みを強化する 訪問記録やアセスメント情報を共有し、誰が訪問しても同じ質で支援できる体制を整える
2	<ul style="list-style-type: none"> 情報共有・フィードバックのスピードと整合性に課題がある 報告書が届くまでに時間がかかる 保護者と園で説明内容が異なることがある 訪問先との連携状況が見えにくい 情報提供のタイミングが分かりにくい 	<ul style="list-style-type: none"> 報告書作成の業務量が多く、フィードバックが遅れやすい 保護者・園・事業所の三者で説明内容が揃う仕組みが十分でない 訪問先との連携内容を保護者に伝えるルートが明確でない 連絡ツールの更新タイミングが統一されていない 	<ul style="list-style-type: none"> 訪問後の簡易フィードバックを早期に共有し、詳細報告は後追いで補う二段階方式を導入する 保護者・園への説明内容を統一するため、訪問前後の内部ミーティングを徹底する 連携内容を保護者にも見える形で共有する仕組み（簡易メモ・共有シート等）を整備する 情報提供のルール（更新日・担当者・通知方法）を明確化し、利用者に周知する

3	<p>訪問スケジュール・カンファレンス運営など、運用面の負担が生じている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンスが長く時間管理が不十分 ・訪問日が複数日に分かれ訪問先の園務調整が大変 ・訪問間隔が空きすぎることがある ・個室での面談ができずプライバシーが気になる 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問日が複数日に分かれ、園務調整の負担が大きくなっている ・カンファレンスの時間管理が不十分で、長時間化しやすい ・個室が確保できず、プライバシーが守られにくい場面がある ・訪問間隔が空きすぎること、支援の連続性が弱まる 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問日を可能な範囲で集約し、訪問先負担を軽減するスケジュール調整を行う ・カンファレンスの進行表（議題・時間配分）を作成し、時間管理を徹底する ・面談場所の確保や仕切りの活用など、プライバシー確保の環境整備を進める ・訪問間隔が空かないよう、計画の早期提示と調整を行う
---	---	--	--